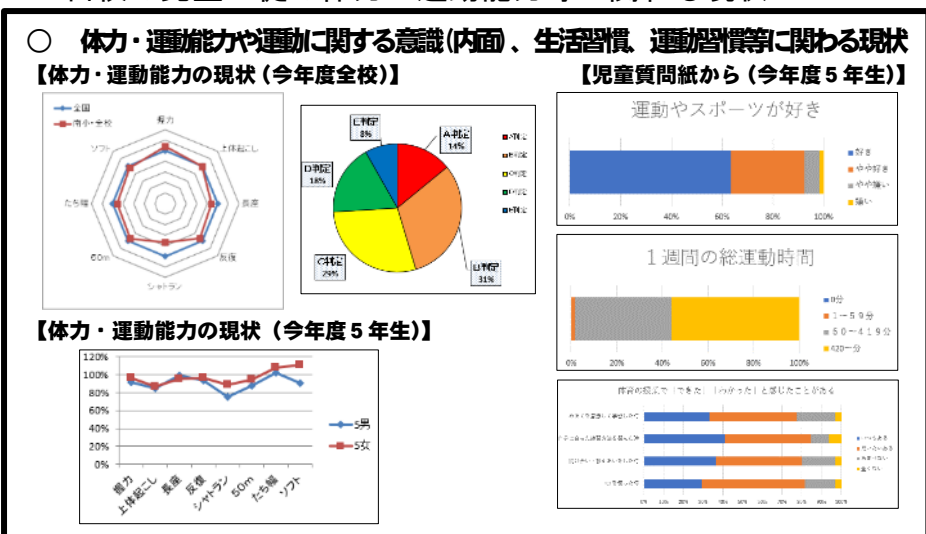


岩見沢市立南小学校

- ・ 体力向上プラン
- ・ 実践概要

令和4年度 岩見沢市立南小学校 体力向上プラン

1 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる現状



2 自校の児童生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

- **体力・運動能力等に関わる課題**
- ・柔軟性、全身持久力に課題がある。
 - ・H30年度以降、年々体力合計点が低下している。
 - ・全校の総合判定は、中・上位層が半数以上ではあるが、前年度よりもA Bの割合が減り、D Eの割合が増えている。
 - ・児童数は増加しているが、用具や場所が足りていない。
 - ・体育専科がおらず、学年・学級ごとに行う時期や内容が違ったので、準備や片付けに時間がかかり、主運動の時間が十分確保できていなかったものもある。(昨年度まで)
- **生活習慣、運動習慣に関わる課題**
- ・運動する時間や機会の減少
 - ・運動をする児童としない児童の二極化
- ※質問紙では、今年度の5年生は1週間で60分以上運動する児童がほとんど

3 自校の児童生徒の体力・運動能力等に係る目標

- **体力・運動能力等に関わる目標**
- ・運動量を確保し、体力・運動能力の向上を図る
 - ・授業の中で「できた」を実感したり、協働的に学ぶ時間とったりして、意欲的に運動に取り組む子どもを育成する
- **生活習慣、運動習慣に関わる目標**
- ・生活習慣を見直し、自分で改善する力をつける
 - ・体育以外で体を動かす時間を作る子どもを育成する

4 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる目標達成状況

○ **体力・運動能力等に関わる目標の達成状況に対する評価指標**

【評価方法】

- ・児童に対するアンケート(運動能力の向上)
- ・複数回の新体力テスト(5年生)

【成果指標】

- ・自分の体力、運動能力の向上を実感している児童80%以上
- ・シャトルランの記録が6月の自身の記録を上回る児童80%以上

【評価結果】

- ・**中間評価(12月)**
12月に2回目の新体力テストを実施。体調が万全ではない児童が多く、自身の記録を上回ったのは半数にとどまった。
- ・**最終評価(2月)**
アンケートの結果、自分の体力、運動能力の向上を実感している児童が80%以上いた。

○ **生活習慣、運動習慣に関わる目標の達成状況に対する評価指標**

【評価方法】

- ・児童に対するアンケート(運動時間・意欲)

【成果指標】

- ・運動時間が1回目のアンケートより増えている児童80%以上
- ・「運動やスポーツが好き」に対して肯定的に答える児童90%以上

【評価結果】

- ・**中間評価(11月)**
「運動やスポーツが好き」と答える児童が86%で、前回よりも微減した。
- ・**最終評価(2月)**
運動時間が1回目と同じか増えている児童が50%、それ以外は減っていた。冬の時期は外での運動機会が減少していることが原因であると思われる。

5 自校の児童生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な取組【1校1実践】

- 1 授業改善**
- ・運動量を確保するため、導入時に体育館は3周、グラウンドは1周走る。
 - ・主運動につながる補助運動やサーキットの実施。
 - ・「できた」を実感できるように、練習の場の工夫や、協働的に学ぶ時間の設定。
- 2 委員会活動と連携した授業以外で運動する機会をつくる**
- ・持久走の時期に合わせて「チャレンジカード」(9月)
 - ・グラウンドが使えなくなる時期に合わせて「縄跳びカード」(12・1月)
- 【取組指標】**
- 1 全学年・単元で継続的に実施し、月末に振り返りを行う。
 - 2 委員会と連携して時期を設定する。

6 次年度に向けた具体的な取組の改善・充実

- ・授業改善により、運動量の確保ができた。来年度は、北海道教育大学岩見沢校の教授とともに、楽しく運動ができる場づくりや運動プログラムを検証する計画があるため、年間通して実践し、管内に周知していく。
- ・「めあてを意識」「ICTを使った学び」「協働的に学ぶ時間」を設定することで運動能力の向上を実感できていたことから、来年度も単元を通して計画的に取り入れていく。

目指す子どもの姿

- ・ 元気いっぱい身体を動かす子
- ・ 元気いっぱい健康に気をつける子

自己肯定感や主体的に運動に取り組む意欲を高める授業づくり

体育専科教員等の視点による
授業づくりのポイント

単元や内容のまとめを見通した授業実践のポイント

CHECK

■ ピア・サポートを基盤とした認め合う風土の醸成による全校児童が「友だちの考えを知りたい」、「自分の考えを伝えたい」という意欲の向上に向けた取組

- ① 本時の振り返りと次時の学習課題の関連付け
 - ・ 振り返りの充実による学級全体の学習課題の共有及び仲間の課題の意識化（本時や単元でできるようになったことを振り返らせ、クラウド上で児童同士がお互いに情報共有）
 - ・ 振り返りの内容を活用し、児童の主体性や思考の流れを生かした学習課題の設定及び学習活動やその目的の明確化（「点を取るためにどのような工夫をするとよいか」「どのように守るとよいか」「自分のチームのよさを生かした作戦は何か」など、本時の学習内容を明確化して提示）
- ② 意図的・計画的な「対話的な学び」の設定
 - ・ ICT機器を効果的に活用し、提示資料や友だちの考えを共有するとともに、互いにアドバイスをし合ったり、作戦を考えたりするためのグループ活動を意図的・計画的に設定
 - ・ クラウドへの対話記録の保存・蓄積及びポートフォリオ化による単元を通した自己変容の実感及び対話記録の内容を通した教師の授業改善

「導入」場面における指導の手立てのポイント



【授業の導入で体育館を走る児童の様子】

- ・ 運動量の確保や全身持久力の向上に加え、学級担任等が体育専科配置終了後も充実した取組を継続することができるよう、サーキットトレーニング等により、多様な運動を実施



【単元に合わせた補助運動やサーキットの工夫】

「展開」場面における指導の手立てのポイント



【1人1台端末を活用する児童の様子等】

- ・ ICT機器の活用（めあて、単元の流れ、動きの動画、作戦の共有、ワークシートなど）

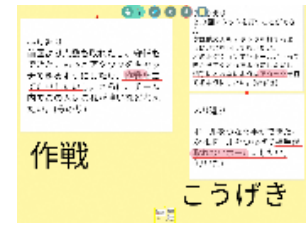


【動きのポイントがわかる掲示物、資料】

「まとめ」場面における指導の手立てのポイント



【クラウドを活用した情報共有①】



【クラウドを活用した情報共有②】

- ・ 児童の振り返りを共有する。
- ・ 1単位時間に児童ができるようになったことや変容を実感させ、自己肯定感を高める。
- ・ 児童の振り返った内容が次時の課題につながるよう根拠を明確に振り返らせる。



体力向上に向けた授業以外の組織的な取組



体育専科教員等の視点による
授業以外の取組のポイント

体育委員会との連携



【持久走チャレンジに取り組む児童の様子】

・毎年9月に「持久走チャレンジ」を実施し、児童が主体的に取り組むことができるようチャレンジカードを作成



【冬のイベントを楽しむ児童の様子】

・体力向上に向けたスポーツ大会実施や、冬の運動機会を確保するための雪だるまコンテスト等の実施

用具の工夫・整備



【ボール 各5~10】 【体ほぐし運動などで使える用具】 【ティーボール用品】

【跳び箱、マット、すべり止め】
【錆落とした鉄棒】

- 用具の計画的な購入
児童が自己の興味・関心や課題に応じて主体的に用具を使用できるように、計画的に用具を購入するとともに、既存の用具等の整備を実施
- ボールに触る機会の増加
ボール運動をきっかけに体力向上を図るため、児童が扱いやすい柔らかいボールなどを増やし、運動が苦手な児童もボール運動への恐怖心が和らぐよう工夫
- 怪我の減少
用具を整備し、安全への配慮を意識したことにより、体育授業における怪我が昨年度よりも減少

これまでの授業改善及び組織的な取組の成果

- ・1回目の新体力テストで全校的に全身持久力に課題があった。そこで、授業ではできるだけ運動量を確保したり、委員会活動とも連携して授業以外で身体を動かしたりする取組を実施した。
- ・12月に2回目の新体力テスト（シャトルラン）を行ったが、1回目の記録と同等もしくは上回った児童が60%であり、目標の80%を下回る結果となった。
- ・運動能力の向上を感じられるように「めあてを意識」「自分に合った練習方法を選ぶ」「助け合い・教え合い」「ICT機器を使って学ぶ」の4点を意識した授業づくりを行った。児童アンケートでは、80%以上が体力の向上を実感していた。特に、「めあてを意識」と「助け合い・教え合い」の向上を実感していた児童が増加した。

体力向上に向けた今後の具体的な取組

- 導入場面の工夫
北海道教育大学岩見沢校と連携し、「楽しさ」を味わえる「多様な運動」プログラムの検証と実践を行い、児童の意欲を高め単元を見通した導入場面を中心に授業改善を図る。
- 年間指導計画の改善
準備や片付けの時間を減少させ、児童の運動量を確保できるよう、各学年の年間指導計画を見直し、同じ時期に同じ領域の運動を行うよう改善を図る。
- 教員の指導力向上
全教員の指導力向上のため、授業研究や研修を充実させ、運動が苦手な児童への指導等において、教員が共通理解を図れるよう体験的な研修を実施する。